

同志社大学神学部の歴史

同志社は昨年で創立 150 年を迎えた。1875 年、近代日本の黎明の時期に、新島襄はキリスト教精神に立脚し、良心の全身に充満する人間の育成を志して、京都に同志社英学校を興した。その翌年、この「本科」とは別に、神学を専門的に学ぶ「余科」（現在では大学院に相当）が設立された。

1888 年、「同志社大学設立の旨意」が新島襄によって公表され、1920 年の大学令による認可が得られるまで、大学設立のために多くの努力が傾注された。この間、神学部は専門学校令による「同志社神学校」、また同令による「同志社大学神学部」としてその地歩を固めた。1920 年、大学昇格実現により「同志社大学文学部神学科」となったが、この神学科は 1948 年、新学制によって他の神学校の一部が大学に昇格するまで、本邦唯一の大学レベルにおける神学教育の機関であった。なお、専門学校神学部は 1937 年まで大学神学科に併置されていた。

1948 年、文学部神学科は独立して「神学部」となり、一学部を形成することとなった。1950 年、新学制施行により同志社大学は大学院を有する 4 年制大学となり、神学部もこれに伴い、学部の上に、修士課程（聖書、歴史、組織神学の 3 専攻）、1953 年に博士課程（歴史神学専攻）が設置され、現在では、博士課程（前期課程）および博士課程（後期課程）となって、大学院神学研究科を有する神学研究教育機関として整備されるにいたった。1999 年より学科名を明示し、「神学部神学科」となった。2005 年から大学院博士課程（前期、後期課程とも）に一神教学際研究コースを設置した。2007 年には大学院を再編し、博士課程（前期課程）と博士課程（後期課程）にそれぞれ 1 専攻（神学専攻）を設置した。

神学部は初期の卒業生の中からすでに近代日本の精神界・思想界を指導する牧師、神学者、思想家、教育者、社会事業家を輩出した。これは創立当初から神学部の学問的水準が高度なものであったことを物語る。新島襄、J. Davis、D. Learned などの諸教授によって築かれた学問的基礎は、つぎつぎに加わった内外の優れた学者によって一層ゆるぎないものとなった。20 世紀に入って、日野真澄、芦田慶治両神学部長の時期に神学部の学的充実がはかられ、つづいて、大塚節治、富森京次、本宮弥兵衛、さらに有賀鐵太郎、魚木忠一などが顕著な貢献をなし、同志社の神学的思惟は深く日本の土壌に根を下ろすにいたった。第二次大戦後、大下角一を神学部長として迎え、実践面が強調され、山崎亨、高橋虔両部長の時代には、世界神学教育基金及び内外の後援者の好意により新神学館建設の計画が進行、1963 年に竣工し、研究教育上の便宜が大いに増進されることとなった。60 年代の後半においては、大学と社会の在り方をめぐる基本的な問いかけがなされた。

2003 年から、従来のキリスト教研究にユダヤ教研究とイスラーム研究を加えることにより、研究教育の対象を中東生まれの 3 つの一神教に拡大した。神学部では、現在も神学の在り方を再検討しながら、明治以来の伝統に立ち、これを批判的に克服しつつ、新しい方向をめざして努力している。

大学の学部においてはキリスト教、ユダヤ教、イスラーム教をはじめとする宗教に関する幅広い教養を身につけた人材を輩出することを主眼とし、大学院においては、キリスト教会やキリスト教の諸機関に携わる人材やキリスト教・ユダヤ教・イスラーム教の研究者、広く宗教に関係する諸機関に携わる人材など、宗教に関する専門的知見を身につけた人材の育成をめざしている。